慶應義塾大学ビジネス・スクール

日本板硝子株式会社

2006 年 1 月中旬、日本板硝子は、イギリスのガラスメーカー、ピルキントン（Pilkington plc）を友好的に買収するために、その提示価格を引き上げることを検討していた。日本板硝子は、2005 年 11 月に 1 株 158 ペンスの価格で非公式に提示したが、ピルキントンの経営陣はその価格を受け入れなかった。日本板硝子は、ピルキントンの株式の約 20%をすでに所有していたが、その全株を所有することによって戦略的な事業展開をより積極的に進めようと考えていた。

日本板硝子の沿革

1917 年、杉田輿三郎氏（1885 年生）は、板ガラスの新しい製造方法であるコルバーン式板ガラス製法（Colburn process）に強い関心を持ち、その製造方法を完成させようとしていたアメリカの会社に技術導入の希望を申し入れた。一方、杉田輿三郎氏は、杉田家が住友家と密接な関係にあったこともあって、住友総本店支配人に板ガラス製造計画への援助を懇願し、その賛同を得ることが出来て、日本において板ガラスの製造を始める準備を進めた。[1] 1918 年 11 月、杉田輿三郎氏は、彼を中心に、コルバーン式製法による板ガラスの製造を目的として、アメリカの Libbey-Owens Sheet Glass Company（LOSG）（本社オハイオ州トレド市、1916 年設立）から技術を導入して、日米板硝子株式会社（America Japan Sheet Glass Company, Ltd. 資本金 3 百万円）を大阪に設立した。会社の設立にあたって、LOSG が発行済株式の 3 分の 1（20,000 株）を引き受け、筆頭株主となった。[2] しかし、LOSG の出資は特許権の現物出資が 1 百万円であり、現

[1] 日本板硝子株式会社、*日本板硝子株式会社五十年史*（1968 年 11 月），pp. 43-44

[2] 日本板硝子株式会社、*日本板硝子株式会社五十年史*（1968 年 11 月），pp. 45-63

本ケースは、慶應義塾大学名誉教授鈴木貞彦が、公表資料に基づいて作成したものである。本ケースは経営の巧拙を例示することを目的としたものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/ へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 鈴木貞彦（2007 年 3 月作成：2014 年 10 月改訂）